2024
1
岡山県立倉敷工業高等学校　資格検定推進室

資格検定ニュース

2024 年 1 月｜第 19 号

総合的な判断

１月 19 日朝日新聞朝刊に記載された「天声人語」にあった論評に興味を持った。私なりに要約すれば、次のようなものである。

『「総合的な判断」とは何だろう。以前からよく聞く言葉とはいえ、漠然としていて、何を意味するかは分かるようで分からない。真意を隠す目的で広く使われている。
説明をしたがらない社会で、大手を振って闊歩（かっぽ）するのは、強い者たちの恣意（しい）的な思惑である』

本来、本当に相手に問題を提起し、相手に納得してもらうための説明であれば、論点をはっきりさせるために、根拠を１つづつ列挙して、箇条書きで考えるのがフェアである。そこではすべて賛成やすべて反対は稀であり、「この点は賛同できるが、この点は再考すべきである。」となるのが自然ではないか。本来議論はそこからである。

しかし、現実になされる、多くの提案は、提案者の「こうありたい。こうしたい。」が先行し、議論よりも、予め描いた求めたい結果が存在して、それが実現されることが最終目的となっている。

「根回し」や「ロビー活動」という、水面下のオープンでない活動が、物事をスムーズに進行させる手段であるかのごとく、日常茶飯事になれば、「目に見える、オープンな議論」は崩壊しかねない。著名人を登場させ、その発言を権威づけして、結論に結びつけ、「素人は口出しするな。」のような論調も多い。そのように思うのである。